2020年 昨年もいろんな事がありました

コロナのピンチをチャンスに！

新型コロナウイルス感染症が世界的に広がり、長崎市も大きな影響を受けています。

昨年、長崎市では、市内の小中学校が一斉に臨時休校。被爆75周年記念事業の一部や、くんちなど季節を彩る大きな行事が見送られ、インターハイなど、身近な行事も中止が相次ぎました。経済も落ち込むなどコロナは長崎に暗い影を落としました。

一方で、「新しい生活様式」を上手に取り入れながら長崎に元気を取り戻そうと、地域や事業者、行政などが一緒になってさまざまな取り組みが行われました。地域のつながりや思いやりを持つことの大切さを改めて確認できた1年になったと思います。

1月

◆**稲佐山スロープカーの運行開始（①）**

◆新たな文化施設の建設地を市役所移転後の跡地（桜町）にすると正式発表

2月

◆出島入場者600万人

◆市と地元企業7社が共同で、自治体新電力会社「ながさきサステナエナジー」を設立

◆**市制施行130周年を記念して市の鳥「ハト」のシンボルマークを発表（②）**

◆仁田佐古小学校の新校舎で授業開始

3月

◆新長崎駅（在来線）の開業

◆**式見中学校閉校（③）**

◆長崎開港450周年を記念する事業のロゴマークが決定

4月

◆**長崎（小島）養生所跡資料館の開館（④）**

5月

◆長崎県立大学と包括連携協定を締結

①

③

④

②

⑤

コロナを乗り越える さまざま取り組み

みんなで宣言しよう！

長崎やさしいまち宣言ポスター

密を避けながら健康体操（桜馬場地区いきいきタイム）

屋外でテイクアウトイベント（大黒町クリスマスマルシェ）

各事業者は店頭に手指消毒スプレーを設置

飛沫飛散防止フィルムを設置（深堀ふれあいまつり）

また、リモートでの会議やイベントが増えるなど、コロナ禍に対応した社会の変化もあっています。人が密集した大都市から地方へ、人の流れが強まる可能性があるとも言われています。このような変化に対応しながら、ピンチをチャンスに変えて、前よりももっと暮らしやすいまちをみんなでつくりましょう！

6月

◆**「砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～」が日本遺産に認定（⑤）**

◆バスケット元日本代表・中川聴乃氏の観光大使就任

◆**遠藤周作の未発表小説「影に対して」発見（⑥）**

7月

◆長崎市を含む県内4市3町に大雨特別警報が発表

◆英国・アバディーン市との市民友好都市提携10周年

8月

◆**被爆75周年原爆犠牲者慰霊平和祈念式典（500人程度に規模を縮小して開催）（⑦）**

◆（仮称）ながさき若者会議スタート

◆**中近景の夜景4エリア（中島川・寺町、西坂・諏訪の森、丸山、館内・新地）のライトアップ開始（⑧）**

9月

◆スマートフォンで市税などの納付を開始

◆稲佐山からの夜景リニューアル（ハート、星座）

◆**中国・福州市との友好都市提携40周年（⑨）**

◆**核兵器禁止条約の発効決定（⑩）**

10月～

◆地域活性化・地域課題解決に関する産学官金連携協定を締結（長崎市、長崎大学、長崎県立大学、NTT西日本、NTTアーバンソリューションズ、ふくおかフィナンシャルグループ、十八親和銀行の7者）

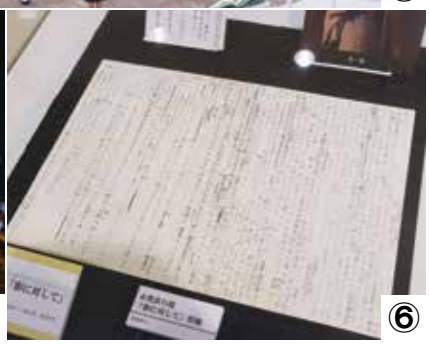
◆交流の場の専用ホームページ「ながさき井戸端パーティー」スタート

⑨

⑦

⑩

⑧



⑥